

夢のつばさ♥プロジェクト 2018年度 事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】 2018年8月4日～8月7日

【開催地】 (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】 子ども22名、学生ボランティア・OB/OG 58名 (途中入替わり含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者13名 (看護師含む)

【主な内容】

8月4日	TEPIA 先端技術館見学、開会式	受験生 スタディ
8月5日	朝の勉強会、謎解き脱出ゲーム、ゆめオリンピック競技練習、音楽会	
8月6日	朝の勉強会、水遊び、ゆめオリンピック大会	
8月7日	閉会式、写真スライドショー	

(2) 秋の交流会

【実施日】 2018年10月14日

【開催地】 宮城県仙台市 (西公園、仙台国際センター)

【参加内訳】 子ども23名、学生ボランティア・OB/OG27名、社会人ボランティアスタッフ2名

【主な内容】 夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために被災地で行う日帰り活動。今回は主に子どもたち同士、子どもと学生との距離を縮めるレクリエーションゲームを実施した。学生の代表数名、社会人スタッフは、保護者の方たちと懇談会を行い、webを使用した学習支援の経過説明も実施した。また奨学金給付団体「みちのく未来基金」事務局のご説明を伺う時間を取った。

(3) 冬キャンプ

【実施期間】 2018年12月22日～25日

【開催地】 (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】 子ども33名 (他に社会人1名)、学生ボランティア・OB/OG 60名 (途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者17名 (看護師含む)

【主な内容】

12月22日	開会式、アイスブレイクゲーム	受験生 スタディ
12月23日	朝の勉強会、ピタゴラスイッチ制作、音楽会、クリスマス会、中高生プロジェクト	
12月24日	朝の勉強会、ピタゴラスイッチ制作と発表、20歳プロジェクト、中高生プロジェクト	
12月25日	閉会式、写真スライドショー、夢のつばさスタディ応援メッセージ	

第1号議案

(4) 2019年春の交流会

【実施日】2019年3月17日

【開催地】宮城県仙台市（太白区中央市民センター、生涯学習センター）

【参加内訳】子ども25名、学生ボランティア・OB/OG 26名、社会人ボランティアスタッフ2名

【主な内容】夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために被災地で行う日帰り活動。現在参加している子どもに小6・中3生が多く、新しい学校で新学期を迎えることになるので、夢のつばさのいつもの仲間の安心感をもって前向きな1年を過ごせるようにと企画を実施。学生の代表数名、社会人スタッフは、保護者の方たちと懇談会を行った。

2. その他事業

(1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行った。

日時	イベント（実施者）	対象	場所
2018.4.25	県立元石川高校表敬訪問、アントレプレナーシップ授業参観（滝澤）	中高生 約100名	神奈川県
2018.5.14	東京工業大学自立支援部門表敬訪問（滝澤）	東工大学生	東京都
2018.5.19	お茶の水女子大学美登利会総会講演「夢のつばさの7年一東日本大震災で親を失った子ども達に寄り添って」（滝澤）	一般、お茶大幼児教育課程同窓会員 約80名	東京都
2018.7.28	たまプラーザ夏祭り（学生）	一般不特定多数	横浜市
2018.8.3	日本の次世代リーダー養成塾（室伏）	高校生・教員等 約300名	宗像市
2018.8.5、9.28、10.14	みちのく未来基金と懇談、交流活動（室伏、滝澤）		東京都
2018.10.27	豊洲市民マラソン（学生）	一般不特定多数	東京都
2018.11.10	田園調布学園土曜プログラム（滝澤）	中高生 30名	東京都
2019.2.15	（株）富山房インターナショナル主催 第145回サイエンスカフェにて（室伏）	一般 約40名	東京都
2019.2.18	東京工業大学第12回学生応援フォーラム（学生代表2名による発表）	東工大学生	東京都

(2) ボランティア学生及びOG・OBの活動

例年と同じく、ボランティアの大学生らは、週に1回、お茶の水女子大学内で会合を開き、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会の企画・準備を行い、イベント終了後には振り返りの会を開いている。子どもたちへ誕生日カードの送付や、近況を報告しあう新聞の発行なども滞りなく進められ、子どもや保護者から好評である。

夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得についても自主的な活動を続けており、たまプラーザ商店街の夏祭り、豊洲市民マラソンには引き続き有志が参加してイベントを手伝い、広報・寄附活動を行った。また東工大関係者から、東工大学生の夢のつばさプロジェクトへの参加勧誘の依頼を受け、事

第 1 号議案

務局や学生らが、東工大学生の子ども向け科学実験グループや児童福祉グループへ連携を呼びかけたが、主に日程的な課題（夏冬とも試験期間・授業日程と重なる）もあり、いまだ実現はしていない。

「web を利用した日常的な学習支援」は要望のあった高校受験生 3 名について行われた。この家庭教師／個人指導は、大学生のボランティアで続けられたが、事務局も随時大学生からの報告を受け、保護者への報告等を確認している。保護者面談も行って、それぞれ感謝の言葉をいただいた。子どもに合わせたきめ細かな指導が続けられ、希望の高校入学を果たすことができた。

3. 総括

本年度も活動は順調に進められている。例年と同じく、東北 3 県各地の教育委員会や福祉担当課等を通じて一般に募集を行っており、イベント終了後にはそれぞれへ連絡報告を行って連携を取っている。東日本大震災後 8 年目の活動となり、18 歳以上となっても引き続き参加している子どもたち数名が、学生スタッフとしての自覚と誇りをもって、送迎やキャンプ中に後輩の世話をしている様子は大変うれしいことである。

2018 年夏は大変な酷暑で、各地の学校行事で子どもの熱中症報告が相次ぎ、死亡事故が報告された。夢のつばさでも、夏キャンプに向けてさまざまな企画準備を重ねていたが、まずは子どもたちの体調管理を第一にと考えて、直前に会場や行程などを再検討して臨んだ。

冬のキャンプはクリスマス会／音楽会やサンタクロースのプレゼントなどもあり、いつも華やかで高揚感が感じられる。今回のキャンプに参加した支援対象者は（社会人となった 1 名を含め）34 名で、これまでで最も多かった。学生ボランティアや OB・OG の社会人も大勢駆け付け、過去最大規模のキャンプとなった。高校受験を控えた子も増え、夢のつばさスタディという受験生の勉強時間を設けたり、中高生が互いに語り合う企画や 20 歳を迎えた参加者を祝う企画もあり、これまでの活動の年月と子どもたちの成長に感慨を新たにした。20 歳の 2 名が、「自分たちが夢のつばさの活動に力を得てここまで来た」ことの感謝を述べ、「親や祖母へ自立した自分を見せて、早く生計を助けて安心させたい」と述べたことが胸を打った。社会では様々な支援活動が先細りとなり、当該家庭では心細さが増していると聞いている。適切な支援を続けたいと願っている。